

## 崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

開催日時： 平成3年10月2日 13:30-17:00（原研本部）

出席者： 片倉（原研）、加藤、田坂（名大）、中嶋（法大）  
橋、山田（早大）、吉田（東芝）

- 配布資料：
- a. 前回議事録（吉田委員）
  - b. FP核データ専門家会議プログラム案（吉田委員）
  - c. Copy of a letter to Dr. R.E.Schenter (吉田委員)
  - d. 遅発中性子計算結果（田坂委員）
  - e. 遅発ベータ線スペクトル計算結果（田坂委員）
  - f. 推奨値使用法についての富永氏よりのコメント（加藤委員）
  - g. DECANT及びCAPTCORRコードリスト（加藤委員）

議事：

### 1. 報告事項

#### (1) 一般報告

- 1) 資料b.に基づき来年東海で開催されるFP核データ専門家会議の概要が報告された。崩壊熱のGeneral Reviewは吉田委員が行い、田坂委員がこれに協力することとなった。
- 2) 資料c.に基づき、ANS5.1委員会による米国の崩壊熱基準改訂計画とタイムスケジュールが紹介された。
- 3) 原学会の崩壊熱推奨値をECCS指針に採用する目的で原子炉安全基準部会内に崩壊熱評価小委員会が設置され、田坂委員が委員として、片倉、吉田両委員が部外協力者として参加する予定であることが報告された。
- 4) HeidelbergのKlapdor教授から田坂委員が平均エネルギーとPn値の入った磁気テープを入手したので、名大でこのデータによる比較計算をやって見るとの報告があった。
- 5) 数年おきに開かれているFar-off Stability核の国際会議が来年七月ドイツで開催されることが、山田委員より紹介された。山田、橋両委員が出席する。

#### (2) 遅発中性子計算結果

資料d.に基づき遅発中性子収率計算結果が田坂委員より報告された。WahlのApモデルによる計算が追試され、整合性が一応確かめられた。U-238の遅発中性子

割合  $\nu_a$  は 4.5 程度で実験と合うが、今後 U-233 での実験とのズレにも着目すべきだとの説明があった。今後、Wahl の Ap モデルで崩壊熱計算を試行する。

### (3) ベータ線スペクトル計算

資料 e. に基づきベータ線スペクトル計算結果と測定との比較が田坂委員より報告された。橋委員より名大に送付された、改良大局的理論コードの使用により、測定との一致は全般的にやや改善される。今後、ガンマ線スペクトルも改良大局的理論での計算を試みる。

## 2. 討議事項

### (1) 原子力学会「崩壊熱推奨値」報告書添付フロッピーについて

標記フロッピー中の DECANT プログラムに一部誤りが有る事を、中国電力の富永昌平氏が通知してくれた旨、加藤委員より報告があった。富永氏は修正版を添付してくれており、吉田委員がチェックしたうえで、学会を通してユーザーに修正法を通知することとなった。

### (2) ライブライアリの改訂について

JNDC FP 核データライブライアリ第 3 版を 3-4 年を目処に作成する方向で議論があった。この議論を今後も継続しながら、第 3 版の作成にむかう。

## 3. Action List

- a. FPGS90 と第二版の差異を究明するため原研に残るライブライアリを田坂委員に知らせる（片倉委員）
- b. Maerten(Dresden) に手紙を書き Fission Systematics の論文入手（吉田委員）
- c. LANL より入手のフロッピー中の DN スペクトルをチェックのうえ田坂委員に送る（片倉委員）
- e. Studsvik の Johannson にベータスペクトルデータを送ってくれるよう依頼する（田坂委員）
- f. 水戸論文の基礎になった precursor 每の Pn 値を田坂委員に送る（橋委員）
- h. DECANT プログラムの誤りと修理法を確認、加藤委員に知らせる（吉田委員）

次回は 1 月 24 日（金）